

科目No.	HK911	科目名	Modern 書 art 入門				副題	古典を学び、創作に繋げる			
連携機関名	凜穂会	レベル	基礎	教室定員	16	配信定員	0	講義日時	第2・第4水曜日 18:30~20:30	講義場所	ザ・タワー大阪 2階
科目概要(300字)	書は元来、実用のためのものであり、文字は記号である。しかし、日本文化である書道は芸術的な素晴らしさを有している。その技法を学んで、そこに心をのせる術を知れば、文字を美しく書く、或いは魅力ある制作することに留まらず、人を癒し、優しく勇気づけ、励ますなど観る人の心を動かすことのできる作品を創ることができる。受講に際し、書道の経験は不必要だが、使用する道具などは全て受講者本人が用意し持参することが必要である。										

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	開講式・なぜ書を学ぶのか	書の用具やその扱い方(文房四宝)そして様々な書風について解説する。また、書作品の鑑賞を通して、その美醜や創作時の筆者の感情について検証し、自らの創作に役立てる。今後の講義内容について説明する。(書道具は不必要で、2回目以降に必要な道具について説明する。)	4月11日	レセプション サロン	木積凜穂	凜穂会
基本練習	2	歴史と基本点画を学ぶ	書の歴史と様々な書風について解説する。筆使いの要点、文字の形のとり方などの原則的な技巧を学び、文字の配置や線質など、創作につながる技術を身につける。	4月25日			
古典を学ぶ	3	楷書	楷書の特性である【点画の間に緊密な力が働き創り出される、静止した美しさ】について、「雁塔聖教序」・「孔子廟堂之碑」・「高貞碑」などの古典を鑑賞して学び、実技を行う。	5月9日			
	4	行書	行書の特性である【運筆の遅速、はっきりとした抑揚、明確な筆脈や点画の連続】について「蘭亭序」・「屏風土代」などの古典を鑑賞して学び、実技を行う。	5月23日			
	5	草書	【点画が簡化され、連綿している部分が多く、速写用として用いられる】草書の特性について、「十七帖」・「恩命帖」などの古典を鑑賞して学び、実技を行う。	6月13日			
	6	篆書	最古の漢字である甲骨文字をはじめ、小篆、大篆、金文などがある篆書について、「甲骨文」・「金文」などの古典を鑑賞して学び、実技を行う。	6月27日			
	7	隸書	篆書が正式書体の時代に実用的な簡略体として生まれた隸書について、「曹全碑」・「張遷碑」などの古典を鑑賞して学び、実技を行う。	7月25日			
	8	仮名	漢字使用中、日本語表記に便利よう生まれた日本独自の流動感に富んだ美しい仮名について、細字の「いろは」から変体仮名について学び、実技を行う。	9月12日			
創作 —modern 書 artへ	9	創作—漢字1	文字の持つ起源・意味について学んだ後、古典を応用して、絵画的な作品の創作を行う。作品に「心をのせる」ことを目的とする。	9月26日			
	10	創作—漢字2	文字の持つ起源・意味について学んだ後、古典を応用して、絵画的な作品の創作を行う。作品に「心をのせる」ことを目的とする。	10月10日			
	11	創作—漢字3	文字の持つ起源・意味について学んだ後、古典を応用して、絵画的な作品の創作を行う。作品に「心をのせる」ことを目的とする。	10月24日			
	12	創作—仮名	日常においては利用頻度の高い仮名文字で創作を行う。作品に「心をのせる」ことを目的とする。	11月14日			
	13	創作—様々な素材	布や木材などの「紙」以外の素材を用いて作品を創作する。卒業作品を決定する。	11月28日			
	14	創作—手紙・挨拶状	年賀状を書く。卒業作品を提出する。	12月12日			
仕上げ	15	創作—仕上げ	各々の卒業作品について発表し、全員で作品を検証する。	12月26日			